



# チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

## 第44回「GDP統計 2024年7～9月期(速報)について」

11月15日に内閣府より2024年7～9月期のGDP統計が発表になりました。今週は直近の我が国のGDPについてお伝えします。

### ～7～9月期GDP統計の結果～

7～9月期の国内総生産（GDP）速報値で物価変動の影響を除いた実質GDP成長率は前期比で+0.2%、年率換算で+0.9%でした。物価変動の影響を除外していない名目GDP成長率は、前期比+0.5%、年率換算で+2.1%となり、実質GDP、名目GDPともに2四半期連続のプラス成長となりました。また、名目GDPは年率換算で610.9兆円となり、前四半期に続き過去最高を更新しました。

さて、今回発表された需要項目別（個人消費や設備投資など）の伸び率の概要を「裏面表1」にまとめましたのでご覧ください。

主な項目の動きを見ていきましょう。まず、GDPの半分以上を占める民間最終消費は名目で+1.2%（前四半期+1.1%）、実質で+0.9%（前四半期+0.7%）の伸びとなりました。この要因は、夏の賞与支給額が高かったことや定額減税の効果に加え、コメ不足報道による「お米」の需要拡大や高温の夏が長期間続き清涼飲料水など夏季商品の販売が伸びたことなどが挙げられます。来年以降も、労使双方は賃上げに意欲を示していることから消費拡大の継続が期待されます。次に民間企業設備ですが、名目で+0.2%（前四半期+1.9%）、実質で▲0.2%（前四半期+0.9%）となりました。実質の伸びは2四半期ぶりにマイナスとなりましたが、この要因は半導体製造装置やプラント工事関連の減少などが挙げられます。人手不足による設備工事の遅延なども影響しているようで、今後、設備投資の進捗について注視する必要があると思います。

民間住宅も、名目で▲0.2%（前四半期+2.9%）、実質で▲0.1%（前四半期+1.4%）と2四半期ぶりにマイナスとなりました。マイナスとなった要因は、都心部を中心に住宅価格が高騰しているため、購入を控える動きが出ていることが挙げられます。

次に政府・自治体など公的需要の動向ですが、政府最終消費支出は名目で+0.8%（前四半期+0.6%）、実質で+0.5%（前四半期+0.1%）でした。公共投資などの公的固定資本形成は名目で▲0.4%（前四半期+5.1%）、実質で▲0.9%（前四半期+4.1%）でした。政府最終消費は、緩やかな増加基調を維持しています。一方、公的固定資本形成は、年度当初の4～6月に比べて微減となっていますが、前年度の第3四半期の減少幅は実質で▲2.0%であったことと比べれば、軽微な減少に止まっていると判断されます。

最後に輸出入の動向ですが財貨・サービスの輸出は、名目で▲0.5%（前四半期+4.6%）、実質で+0.4%（前四半期+2.6%）の伸びとなりました。一方、財貨・サービスの輸入は名目で+0.8%（前四半期+4.2%）、実質で+2.1%（前四半期+2.9%）となりました。輸出入については、実質成長率が名目成長率より高いということは輸出入物価の上昇率がマイナスであったことを反映しています。その主たる要因は、ドル安円高の影響であると考えられます。（東京為替市場6月末引値：160.92円→9月末引値：142.37円、11.5%ドル安円高）

## ～名目GDPと株価～

今回のGDP統計の発表を受けて、株価と名目GDPの動きはどうなっているのかを確認してみましょう。

下のグラフ1をご覧ください。このグラフは赤い折れ線が名目GDP（直近の年率換算額：610.9兆円）を、緑の折れ線がTOPIX（直近値：11/15 2711.64Pt）を示しています。第2四半期末（6月末）では株価（TOPIX）が名目GDPを大きく上回っていましたが、第3四半期末（9月末）には株価は名目GDPに沿うように調整（値下がり）しました。その後、直近の株価は、名目GDPの先行きを示すように上昇しています。

年末に向け名目GDPの成長を反映して、株価は堅調に推移するのではないかと想定しています。

来週11月29日のウィークリーレターにつきましては、セミナー準備のため休刊とさせていただきます。

12月6日以降は通常通り発刊致します。引き続きご愛読いただきますよう宜しくお願い致します。

表1		
7～9月期 GDP成長率及び需要項目別動向(前期比)		
	単位(%)	
	名目	実質
GDP	0.5	0.2
GDP(前期比年率)	2.1	0.9
《民間需要》		
民間最終消費支出	1.2	0.9
民間企業設備	0.2	▲0.2
民間住宅	▲0.2	▲0.1
《公的需要》		
政府最終消費支出	0.8	0.5
公的固定資本形成	▲0.4	▲0.9
《輸出入》		
財貨・サービスの輸出	▲0.5	0.4
財貨・サービスの輸入	0.8	2.1

(▲はマイナス)

(内閣府「2024年7～9月期 GDP統計」より西村証券作成)

